

# 孫に思い引き継ぐ

## たたかう80代

東京都東村山市渡辺寿賀代さん(86)

### 平和運動続けて50年

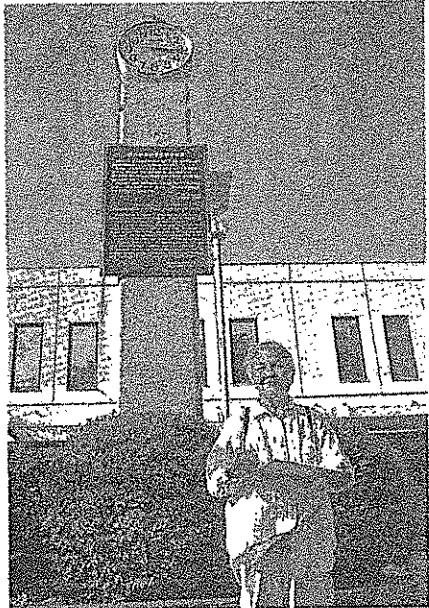
「戦争は二度とごめいし、からだも思うよんです」「核兵器の全面禁止」と街頭に立っている。日本を海外で「戦争する国」にさせないと決意を新たにしているのは渡辺寿賀代さん(86)。「東京東村山市」です。

憲法9条を蹂躪(じゅうりつ)する戦争法。「平和と民主主義への攻撃を許しませぬ」

### 毎月駅前で行動

渡辺さんは、1964年8月の原水爆禁止世界大会に初参加。これをきっかけに核兵器廃絶と被爆者援護を求める「6・9行動」とりくむようになりました。以来、毎月、市内の駅前で行動し、51年がすぎました。

「最近参加者も多



「核兵器廃絶平和都市宣言」の時計塔の前に立つ渡辺寿賀代さん=19日、東京都東村山市

い地方選で、日本共産党の東村山市議として初当選を果たしました。

「稔が反戦平和の思いを引き継いでくれてうれしい。平和は続いた人など無残な負傷者で、中には絶対に戦争を体験させたくない」

### 戦争体験の記憶

平和への痛切な思いの根底に、戦争体験があります。

神奈川県の横須賀海軍共済病院看護学校に高2だった孫の穂さん(30)らを連れて参加。「人間をこんなにしてしまう原爆と戦争は絶対に許せない」と固く心に決めた穂さん。今年4月のいっせ

45年6月10日、B29

(岩井亜紀)

7/22 五旗

## 戦争法廃止

### 私の一言

声に希望を感じた東京南部法律事務所(30)の竹村和也弁護士。戦争法が成立した瞬間は悔しさと怒りでいっぱいでしたが、悲観はしていませんでした。国会前で反対の声を



竹村和也弁護士

を上げる多くの人の姿に希望を感じていたからです。弁護士たちも「これからだね」と言い合いました。米軍新基地に反対する沖縄の人たちの声や国会前に集まる人たちの声にこそ民主主義があります。民主主義と平和主義を無視する安倍政権に壊されてきたものを取り戻す時です。(20日夜、辺野古の新基地建設に反対する若手弁護士有志による新宿駅前宣伝)